

## エメラルド・レイク 山旅報告書

No. 2

日 時：2026 年〔令和 8 年〕6 月 27 日

参 加 者：岡村眞由美・岡村繁雄 他 2 名

行 程：エメラルド・レイク駐車場 → エメラルド・レイク周回トレイル（外周約 5.5km）  
→ エメラルド・レイク駐車場

行動時間：2 時間 50 分

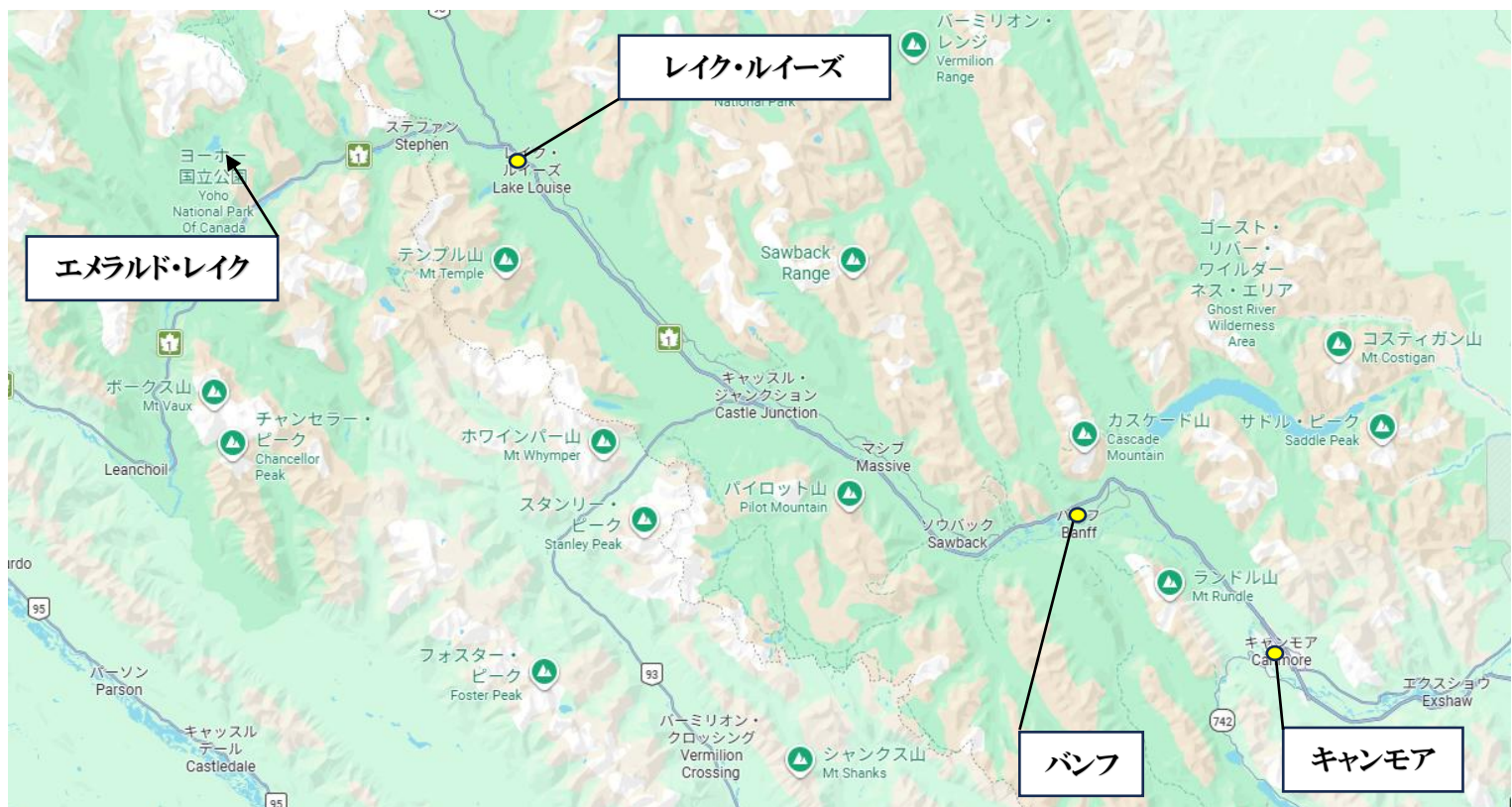
エメラルド・レイクは、B&B モナークの小川さんから「湖畔には花が多く咲き、とても良い所ですよ」と勧められたこともあり、訪れることにした。

キャンモアから車で約 1 時間 30 分。エメラルド・レイクの駐車場に到着すると、すでに駐車場は満車となっていた。係員の案内に従い、駐車場のすぐ近くの路肩に車を止めることとなった。

湖を一周して駐車場に戻ってくると、周辺は大勢の観光客で賑わっていた。さらに驚いたのは、私たちが駐車した場所から先も、路肩に何百メートルにもわたって車が並んでいたことである。エメラルド・レイクの人気の高さを、あらためて実感した。

天気予報では「曇り、所によりにわか雨」との予報だったが、実際には予想以上の好天となった。時間が経つにつれて雲も次第に切れ、美しいエメラルド・レイクの姿が湖畔の木々の間から現れてきた。ちょうど湖面の色が鮮やかに輝くタイミングにも恵まれ、印象的な写真を数多く撮影することができた。

エメラルド・レイクの魅力は、何ととっても美しい湖面だけではない。湖畔には色とりどりの花々が咲き、歩くたびに次々と違った花が姿を現して、目を楽しませてくれた。



Google マップより〔バンフ⇒エメラルド・レイク車で1時間 30 分〕

掲示板には、湖の東側後半の一部区間について「劣悪なコンディション」と表示されていた。しかし、実際に歩いてみると一部では整備が進められており、思っていたほど荒れている印象はなく、特に支障なく通過することができた。

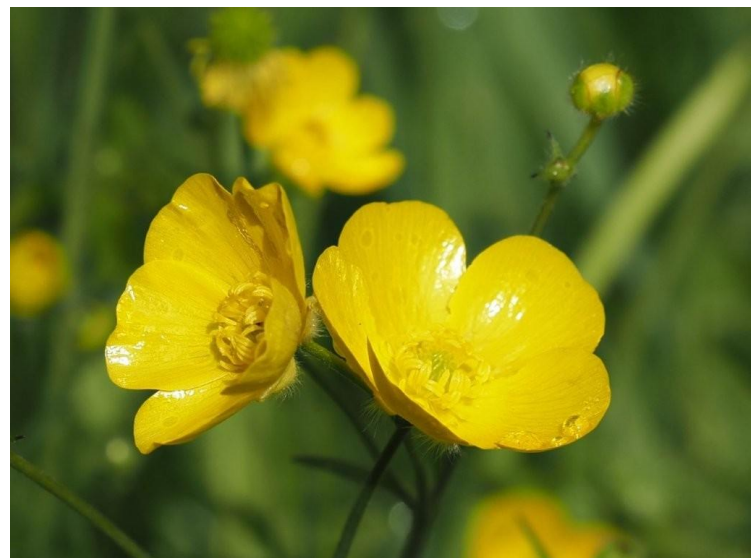
カナダでいう「ハイキングトレイル」は、日本でいう登山道とは少し概念が異なる。比較的歩きやすく整備されたウォーキングコースを指す場合も多く、この日も多くのハイカーが軽装に運動靴というスタイルで歩いていた。私たちのように本格的な登山靴を履いている人は、むしろ少ないくらいであった。



掲示板より[■ ■ ■ … 簡単なトレイル ・ ■ ■ ■ … 劣悪な条件]

エメラルド・レイク・ロッジや栈橋が徐々に遠ざかり、湖畔のトレイルを歩き始めると、観光客で賑わう湖畔とは対照的に、少し離れた場所では静かな山岳風景が広がっていた。

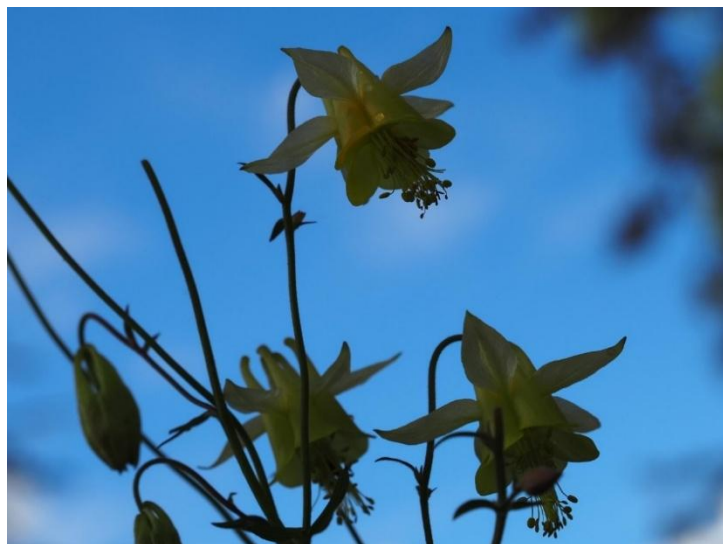
この日は、イエロー・コロンバイン (Yellow Columbine)をはじめ、フォルス・ソロモンズ・シール (False Solomon's Seal)、インディアン・ペイントブラシ (Indian Paintbrush)、ホワイト・カマス (White Camas)、ブルー・クレマチス (Blue Clematis)、バンチベリー (Bunchberry)、ストライプド・コーラルルート (Striped Coralroot)、フュー・フラワー・アネモネ (Few-flowered Anemone)、アルパイン・シンクフォイル (Alpine Cinquefoil)など、実に多くの花を見ることができた。



和名 ユキザサ フォルス ソロモンズ シール (False Solomon's Seal)



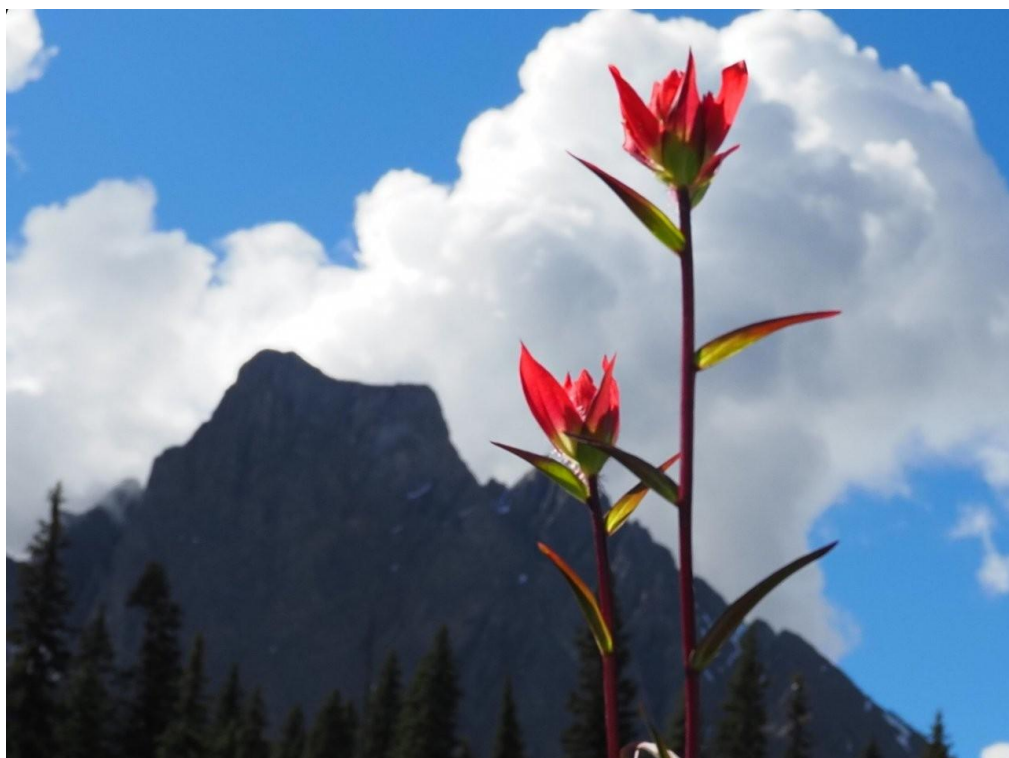
エメラルド・トレイル・ロッジと栈橋



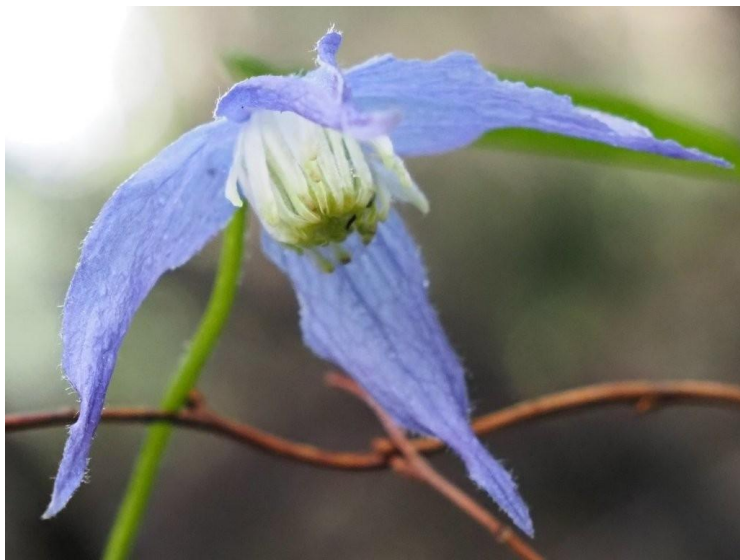
オダマキ属  
イエロー コロンバイン  
(Yellow Columbine)



インディアン ペイントブラシ  
(Indian Paintbrush)



和名 リシリソウ  
ホワイト カマス  
(White Camas)



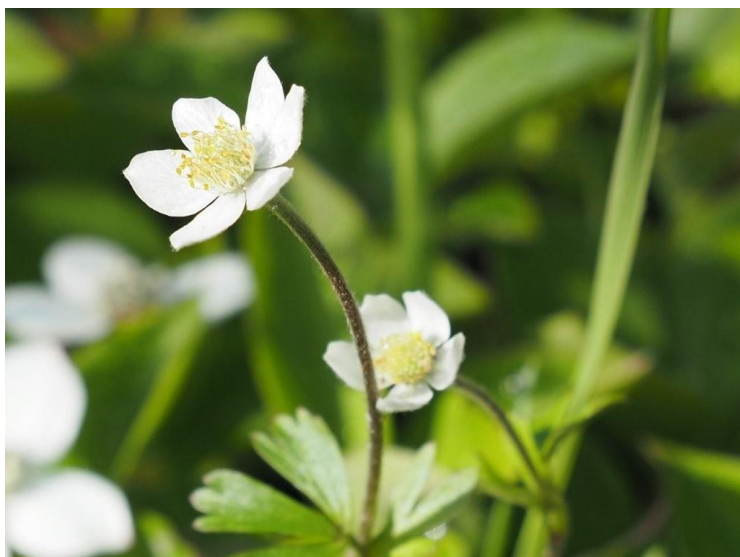
センニンソウ属 ブルー クレマティス(Blue Clematis)



バンチベリー(Bunchberr) ゴゼンタチバナ属



ストランプト コーラルルート  
(Striped Coralroot)

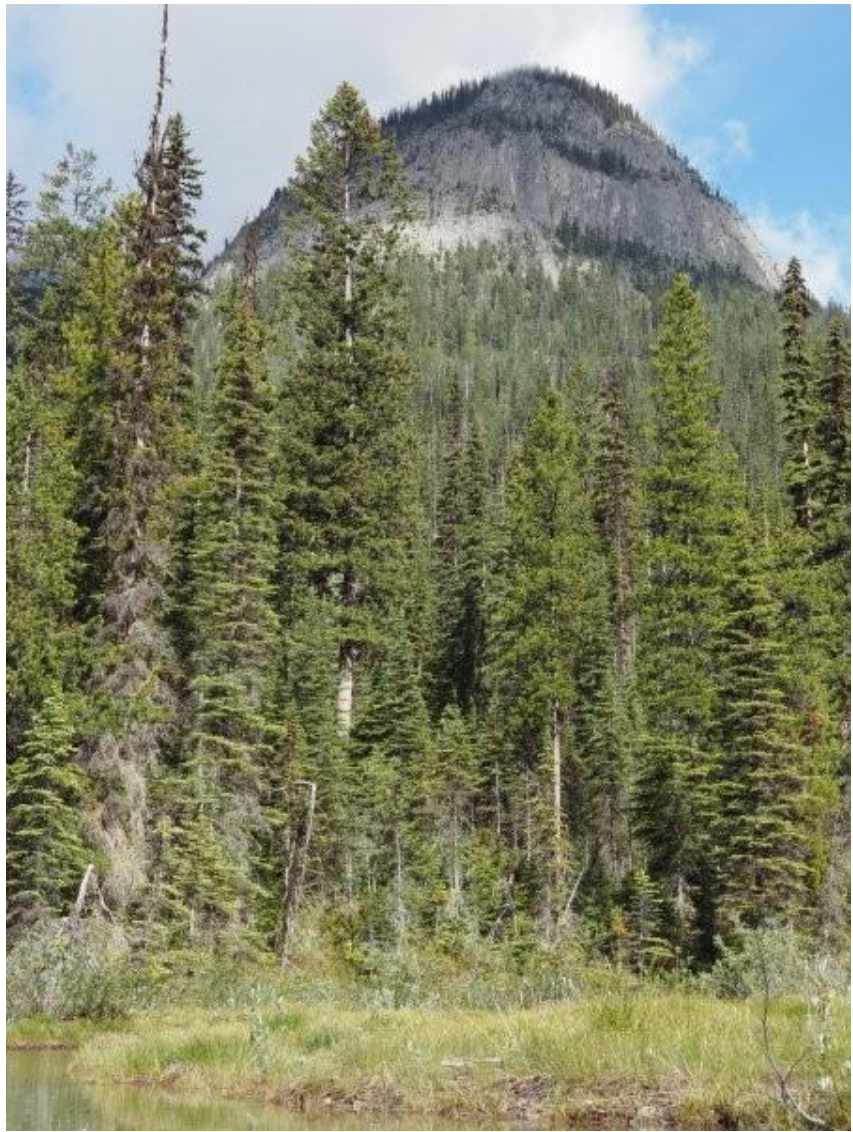


イチリンソウ属 フューフラワード アネモネ(Few-flowered Anemone)



キジムシロ属 アルパイン シンクフォイル(Alpine Cinquefoil)

エメラルド・レイクの奥付近  
よりエメラルド・ピークを望む



ザ・プレジデントを望む〔望遠〕

湖の奥へ進むにつれて、周囲の山々もさまざまな角度から姿を現した。エメラルド・ピーク(Emerald Peak)をはじめ、ザ・プレジデント(The President)などの岩峰が湖の向こうにそびえ、角度が変わるたびに違った表情を見せてくれる。

特にザ・プレジデントは、望遠レンズで捉えると、その雄大な岩峰がひととき存在感を放っていた。湖の美しい色と、周囲を取り囲む険しい山々との組み合わせは、まさにカナディアン・ロッキーらしい景観である。

さらに湖の奥にある橋のたもとからは、マイケル・ピーク(Michael Peak)を望むことができた。湖畔を歩くだけでも、場所によって次々と山の姿が変化し、飽きることがない。

トレイル沿いでは、高山植物だけでなく、ここでもかわいらしいリスが姿を見せてくれた。山に入るたびに会えるリスだが、その愛らしい姿を見ると、今回も思わずカメラを向けてしまう。



ムカシヨモギ属 トール パープル フリーヘン(Tall Purple Fleabane)



名「ハクサンチドリ」 ラウンドリーフト オーキッド(Round-leaved Orchid)



イソツツジ属 コモン ラブラドル ティー (Common Labrador Tea)



後方左 エメラルド・ピーク  
(Emerald Peak)



ワタスゲ属 コットン グラス (Cotton Grass)

エメラルド・レイク奥の橋の  
たもとよりマイケル・ピーク  
(Michael Peak)を望む



インディアン ペイントブラシ (Indian Paintbrush)



和名「アツモリソウ」  
イエロー レディース スリッパ  
(Yellow Lady's Slipper)



和名 リンリソウ ホワイト カマス(White Camas)



和名 ウツボグサ セルフヒール(Selfheal)



クイーンズ カップ(Queen`s Cup)



和名 ズダヤクシュ  
フォルス マイトウオート  
(False Mitrewort)



ザイフリボク属 サスカトーン (Saskatoon)



東側は「劣悪なコンディション」と表示されていたものの、実際には一部で整備が行われており、特に支障なく通行できた



湖の東側より

チャルメルソウ属  
ビッシュヨップス キャップ  
(Bishop's Cap)



キイチゴ属 シンブルベリー (Thimbleberry)

日本にはいないですね  
ストックの先の、真っ黒  
なナメクジ





湖の東側より西側を望む





ザ・プレジデント(The President)〔望遠〕（角度を変えると、その雄大な岩峰がひととき存在感を放っていた）



栈橋付近は、観光客で一杯

湖の東側を進むと、今度は湖の西側やスタート地点のエメラルド・レイク・ロッジ方面を振り返ることができ、歩いてきた湖畔の景色を別の角度から眺めることができた。

特に湖畔を彩る花々は印象的で、歩くたびに新しい花を見つける楽しみがあった。B&B モナークの小川さんが「花が多くて、とても良い所」と勧めてくれた理由が、歩いてみてよく分かった。



ここでもまた、かわいらしいシマリス(Least chipmunk)が姿を見せてくれた

後半になると天候もさらに回復し、エメラルド・レイクの湖面は一段と鮮やかなエメラルド色に輝いた。美しい湖と周囲の山々、そして色とりどりの高山植物を写真に収めながら、ゆっくりと湖畔を歩いた。

通常は約 1 時間 30 分で一周できるコースだが、私たちは途中で何度も立ち止まり、写真を撮りながら歩いたため、約 2 時間 50 分をかけてエメラルド・レイクを一周した。

比較的気軽に歩けるコースでありながら、エメラルド色に輝く湖面、周囲にそびえる雄大な岩峰、そして数多くの高山植物を一度に楽しむことができ、期待以上に満足度の高いハイキングとなった。

B&B モナークの小川さんが勧めてくれた理由を実感しながら、エメラルド・レイクの美しさと魅力を存分に味わうことができた一日であった。

北九州山岳同好会「嵐」

*Reported by S.Okamura Photo presented by S.Okamura*